

愛着と食行動

—母親と女子大生の比較を通して—

○安全保昌 (愛知みずほ大学)

上原正子# (愛知みずほ大学短期大学部)

キーワード：見捨てられ不安、親密性回避、食事（給食）の好き嫌い

序と目的

日本の児童の食環境は、親子関係の変化、情報の過負荷、乱れた栄養バランスとカロリー過多などによって混乱してきていると言われている。

食行動は、進化的に愛着形成と深く関わっている。成長するには、親の養育行動が不可欠であり、離巢性の霊長類にとっては、親への愛着形成と裏腹の関係にある。

食行動は、栄養摂取の他に、規則正しい食事が、生活のリズムと連携し、また、家族との共食が、身体と心の健康の把握など、児童発達に重要な意味を持つ。この研究は、そうした児童の食行動に、親の愛着型がどのような関わりを持っているのかを、母親になる前の女子大生と、母親とその児童の比較を通して探ることにある。

方法

調査項目：愛着型：愛着スタイル尺度 ECR-GO (中尾・加藤, 2004)。食行動：給食（食事）の時間の好悪、嫌いなものが出た時の対処など16項目。調査対象：学生162名（女性93名）、大都市郊外の小学校1、2年生の保護者106名（母親101名）。このうち、女子大生と母親だけを分析対象に選んだ。父親のデータが、極端に不足していたため男性を除いた。有効データは、女子学生89名と母親92名、計181名であった。

調査手続き：学生に関しては、授業で研究の目的を説明し、同意を得られた場合にのみ調査を依頼した。母親に関しては、教育委員会、学校の許可を取り、担任を通じて、児童に対して食行動の調査を行った。また、保護者の愛着型の調査は、質問紙を児童に持ち帰ってもらい、同意を得られた保護者を書いてもらって、後日学校に届けられたものを回収した。分析：見捨てられ不安と、親密性回避のそれぞれの項目の平均点を算出し、7件法の間で、4つの愛着型を決定した。

結果

食事（給食）が好きかどうかについて聞いたところ、好きと答えた学生と児童の母親は、嫌いと答えた場合に比べ、1%水準で有意に、見捨てられ不安が低いことが示された ($F=11.676$, $df=1/177$, $p=.001$, 偏 $\eta^2=.062$)。一方、親密性回避得点においては、好き嫌いに関係なく、学生より母親の方が

若干高い傾向にあった ($F=2.960$, $df=1/177$, $p=.087$, 偏 $\eta^2=.016$)。

愛着型と、学生・母親要因の交互作用が、5%水準で有意で ($F=3.04$, $df=3/173$, $p=.030$, 偏 $\eta^2=.050$)、学生では、恐れ型が安定型より有意に嫌い、母親がとらわれ型の場合は、そのほかの型に比べて有意に子供が、食事（給食）を嫌いと答えていた (図1参照)。

一方嫌いなものが出た場合の対処を訪ねたところ、見捨てられ不安得点において、嫌いなものが出た時の対処の主効果が有意傾向 ($F=2.562$, $df=3/149$, $p=.057$, 偏 $\eta^2=.049$) であった。親密性回避得点においては、嫌いなものが出た時の対処と学生・母親の要因が1%水準で有意であった ($F=3.981$, $df=3/149$, $p=.009$, 偏 $\eta^2=.074$) ため、下位検定を行ったところ、学生においては、差は認められなかったが、児童の対処間に母親の親密性回避が関わっていることが示された。

考察

食事（給食）に対する好き嫌いについて、恐れ型の学生が、自己も他者も拒絶している状況は、自分の食への希望も失せることになったと考えられる。しかし、母親が、恐れ型ではなく、とらわれ型で、その児童が食事（給食）を嫌うのは、母親の自己を否定的に見ている、とらわれ型は、他者は回避しないため、子供への食行動は特段配慮しなくなり、親の食を拒否する姿勢が伝わってしまう。一方、他者も拒否する恐れ型の場合、母親が自覚して、子育ての中で、補正して食育をしようとした結果、子供には影響しなかったと推測することができる。これを確認するには、恐れ型の学生たちの母親がどのタイプかを特定する必要がある。嫌いなものへの対処において、見捨てられ不安が、嫌いなものが出た時に、食べなくさせる方向に働いている可能性がある。

文献

中尾達馬・加藤和生 (2004)．“一般他者”を想定した愛着スタイル尺度の信頼性と妥当性の検討，九州大学心理学研究，5，19-27．

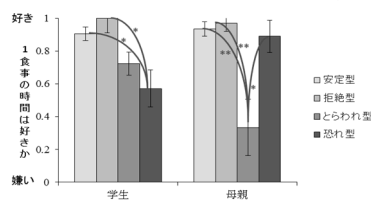


図1. 愛着型による食事（給食）への好き嫌いの差異

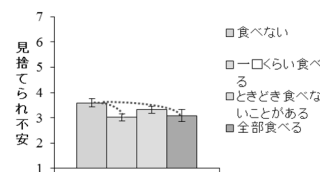


図2. 嫌いなものへの対処による見捨てられ不安の

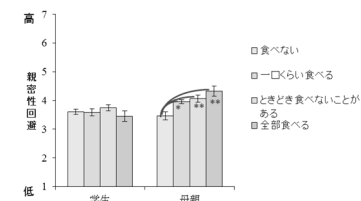


図3. 嫌いなものへの対処による親密性回避の差